

建設常任委員会

委員8名は、7月1日から3日間、北海道岩見沢市と小樽市を視察しました。岩見沢市 北海道の道央圏で、札幌と旭川を結ぶ幹線道路の中間に位置します。平成18年3月に3市町村が合併した人口9万人のまちです。

◆除雪・排雪に強いまち◆
道内でも屈指の豪雪地帯で、ひと冬に7m以上の雪が降るまちです。毎年11月上旬に、市長を本部長とする対策本部を開設し、除雪・排雪一〇番の24時間体制を設置しています。

特に歩行者の安全のため、歩道の除・排雪を最優先に、交通の確保と安全対策を徹底しています。さらに、町内会の自主排雪の支援対策として、市が排雪運搬のダンプカーを提供しています。市長が本部長となっている除雪体制で、「冬を快適に雪に強いまちづくり」の推進は、横手市でも学ぶことが多くありました。

小樽市 北海道西海岸の中央部に位置し、海と山に囲まれた人口14万の商工港湾都市です。にしん御殿や小樽運河、石原裕



岩見沢市では雪冷房システムも視察

次郎記念館など、年間7百万人以上が訪れる、北海道有数の観光地でもあります。

◆歴史と自然を生かしたまちづくり景観条例◆昭和41年、都市基盤整備事業の一環として、大正12年にその役目を終えていた小樽運河の埋め立てが計画されました。これを契機に、市内の石造りやレンガ造りの建物の保存や景観について、数年にわたって大論争が起りました。その結果、昭和54年に運河の埋め立てを中止し、郷土遺産として保存・活用することとしました。その後、平成4年に景観条例を制定しました。地区の特性を生かし、山・市街地・海に区分して、歴史遺産の保全や新たな拠点の創出など、継続して個性ある景観形成を進めています。

果樹振興議員連盟研修会

この連盟は、平成18年3月27日に、議員26名で結成しました。果樹栽培農家の視察など、これまで6回の研修を行いました。6月23日、議員16名は、十文字町の大山さくらんぼ園を視察し、JAふるさと園を視察し、JAふるさとの営農支援担当者から現況について伺いました。

今年のさくらんぼは、豊作型であるものの、数多く成り過ぎたため小粒であり、市場の値崩れが心配とのことでした。

また、病害虫の被害もなく、授粉期には養蜂家の協力で9割以上の授粉ができたとのことでした。りんごについては、担い手不足などから農家が生産を中止した場合、りんごの成木を伐採してしまふことがほとんどで、りんご生産の大きな課題として、意見が交わされました。



大山さくらんぼ園を視察

消防議員連盟研修会

6月30日、議員8名の参加で、研修会を開催しました。湯沢雄勝地域との消防広域化の進行状況や課題、市消防署の統合問題などについて、消防本部や総務企画部のあいだで意見が交わされました。

消防の広域化については、1月に事務担当者会議を、2月には広域化に関する事前協議を行っていきます。その後、湯沢市の事情により協議会は中断していますが、一部事務組合方式か事務の委託方式かを決定し、協議会を設置し進めることを確認しているとのこと。

横手市でも、出動体制や消防車両・専門要員の確保などで限界があり、市民の安全安心のため何が必要かをしっかりと見据えた議論が必要であることを確認しました。



熱心に行われた研修会